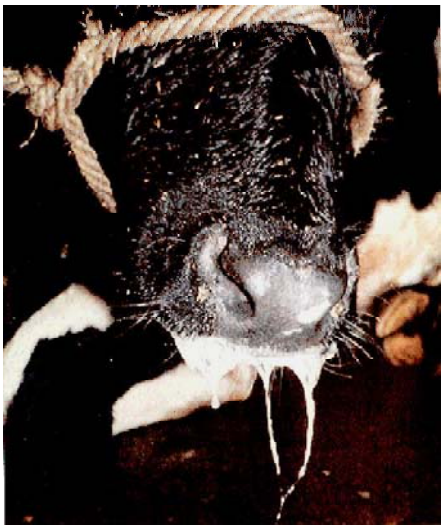
口蹄疫　とは

1　原因（病原体）
　口蹄疫ウイルス(Picornaviridae Aphthovirus)

2　感受性動物
　牛、水牛、めん羊、山羊、豚、しか、
　いのしし

3　症状
　突然40～41℃の発熱、元気消失に陥ると同時に多量のよだれがみられ、口、蹄、乳頭等に水疱(水ぶくれ)を形成し、足を引きずる症状が見られる。



【多量のよだれ】
出典：動物衛生研究所

4　発生状況
（１）国内：
　明治41年(1908年)　東京、神奈川、兵庫、新潟　５２２頭
　平成12年(2000年)　宮崎(3～4月：3戸)，北海道(5月：1戸)
　　患畜・疑似患畜　７４０頭　［９２年振りの発生］
　　＊）日本は平成12年９月27日に清浄国に復帰。
（２）海外：オセアニアと北米以外の世界中で発生が見られる。

5　診断
（１）抗体の検出を行う。
（２）水疱材料等からのウイルス分離を行う。

6　予防法
　原則、発症動物のとう汰による清浄化を推進。また、緊急接種用の不活化ワクチンを備蓄。我が国では水際での厳重な検疫を実施（発生国からの畜産物等の輸入禁止等）
　なお、本病の常在国及びその隣接国では不活化ワクチンが使用されている。しかし、一度ワクチンを使用すれば、ワクチン接種動物は感染源となる確率が高い。

7　治療法
（１）なし
（２）発生した場合は，家畜伝染病予防法に基づき，まん延防止のため家畜の所有者によると殺が義務付けられている。